

アとぞ 放送

No.41

2008.3

■事務局

名古屋市島田第二保育園

〒468-0024 名古屋市天白区大根町57

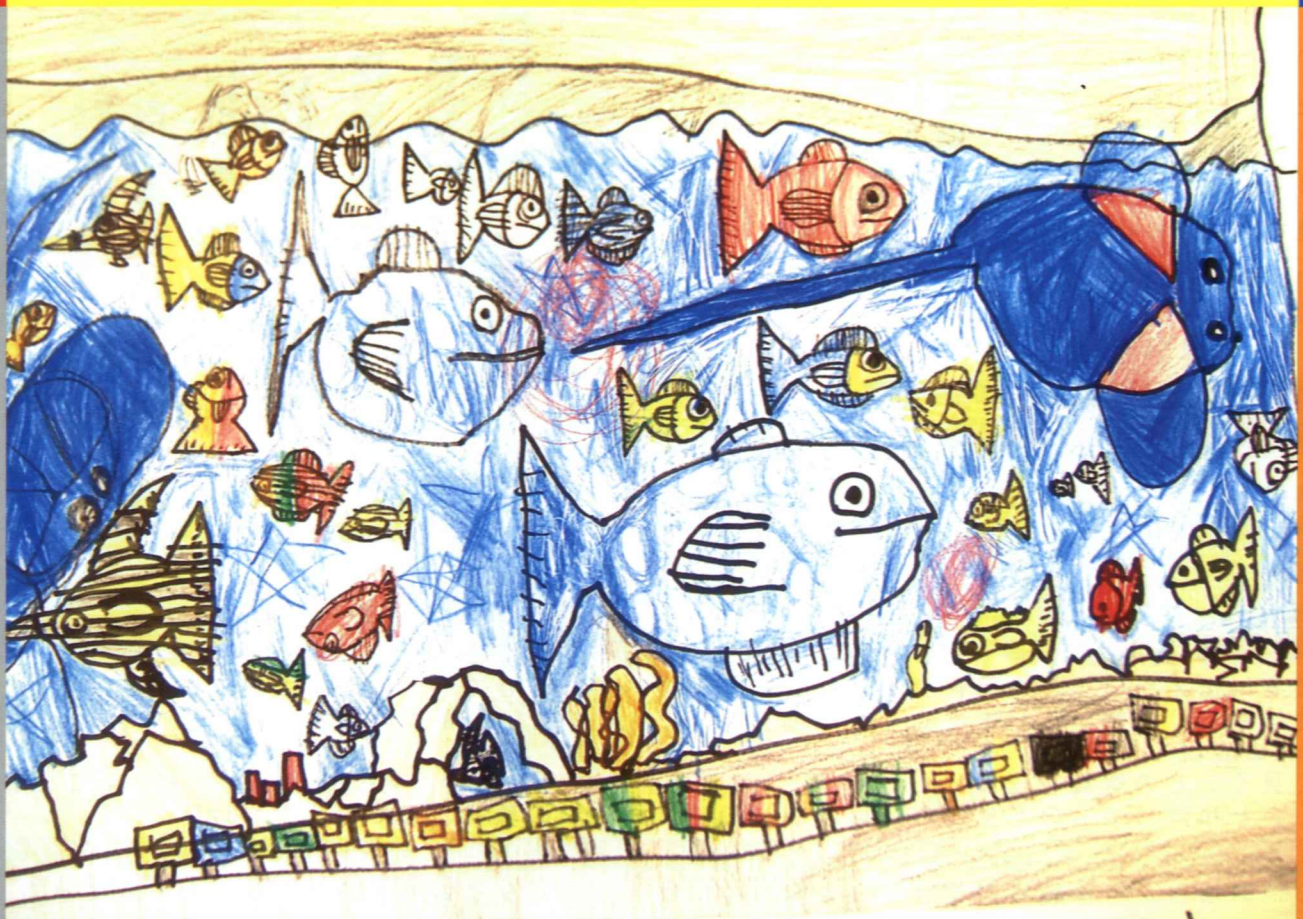
TEL (052) 802-5277

■発行者

愛知県幼児視聴覚教育研究会

会長 伊東 世光

- ★テレビに関するアンケート(昨年度の継続)
- ★第45回東海北陸地方放送教育研究大会報告
- ★第39回愛知県放送教育特別研究会報告
- ★第39回愛知県幼児視聴覚教育研究大会報告
- ★番組紹介「ダーウィンが来た!」
- ★おしりかじり虫がやってきた!
- ★第40回愛知県幼児視聴覚教育研究大会案内



19年度

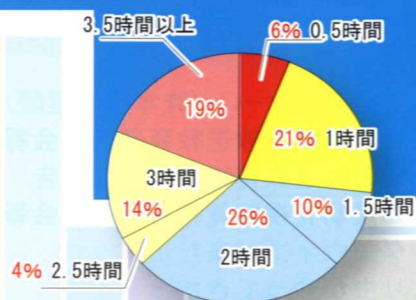
家庭でのテレビに関する調査結果

研究委員会では、家庭における乳幼児のテレビとのかかわりを把握し、園での視聴覚活動に活かすとともに、保護者に子どものテレビ視聴に関心をもってほしいという願いをもって18年度より調査を始めました。そして、その結果を基に研究委員で話し合いました。

(19年度は、18年度の調査結果を受け、内容を少し変更して行いました。)
(18年度資料につきましては、“子どもと放送 NO.40”を参照にしてください。)

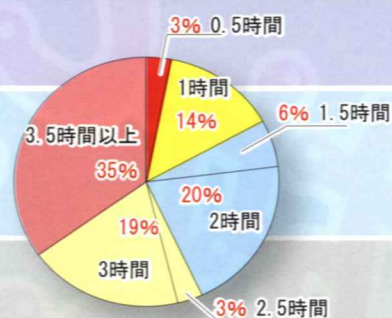
対象・・・18年度保育園：600名、19年度幼稚園：520名

平日、テレビ等を見ている時間



○幼稚園児は降園後の時間が長いので、家庭でテレビを見ている時間が長いと思っていた。しかし、平日は1～2時間、休日は1～3時間くらい見ている子が多く、18年度の結果とあまり変わらないことが分かった。

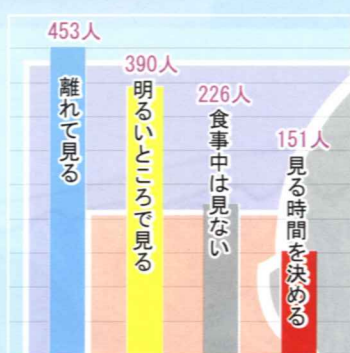
休日、テレビ等を見ている時間



テレビを見る時の約束

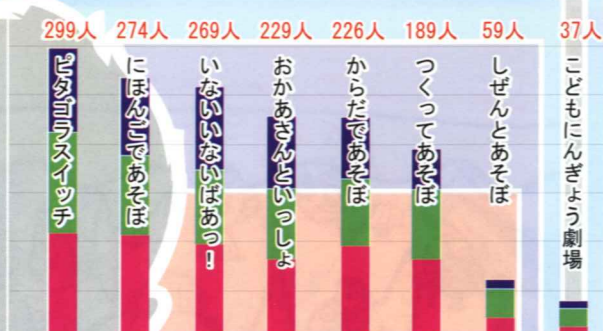
○その他の約束には、決めた番組を見る、だらだら見ない、長時間見ない、座って見るなどがありました。

○家庭ごとに約束を作り、大人と一緒に見ている場で知らせていくとよいと思う。



見ているNHKの番組

■ 3歳児 ■ 4歳児 ■ 5歳児



○年齢によって見ている番組の傾向がある。その傾向は制作者側のねらいに沿っているように思う。
○家庭では幼児が見たいから見ている、保護者が意図的に見せている、内容が親しみやすいので見ているなどのことが分かった。
○家庭ではあまり見ていないけれども、園で友達と一緒に見るとよい番組があるように思う。

テレビ等を一緒に見ている人とその時間

○一人で見ている家庭が少なく、兄弟父母など誰かと一緒に見ている家庭が多い。
○一人で見ている時間帯は、平日の朝が多い。
保護者が忙しい時間帯と思われる。テレビを子守代わりにしているのではないかなと思う。
○休日の昼間は、あまり見ていない。
保護者と一緒に遊んだり買い物に出かけたりして過ごしているように思われる。

○保護者に伝えたいことを保育者が理解して、具体的に知らせていくことが大切である。
・一緒に見たり、動いたりすることで感動を共にできるので、家庭でも親子一緒に見てほしい。
(幼児の表現・動き読み取り。大人が感じたことの伝達)
・園で見ることの意義を理解してもらう。(同じ年齢の幼児と一緒に見て、感動を共有すること。実際に見るのが難しいものを見ての疑似体験。指導計画の中の教材としての位置づけ。)

○その他の項目から保護者が見せたい番組の中には、リアルタイムで見るのがなかなかできない物が多いので、VTRやDVDにとって、見ていることが分かった。また、家族で一緒に見ている家庭も多く、家庭内のコミュニケーションを一つになっているようである。
※このような家庭の実態を受け、園での視聴覚教育の一つとしてテレビを有効に利用していくとともに、この結果を基に保護者に何をどのように知らせていくとよいか考えていく必要性を感じている。

第45回東海北陸地方放送教育研究大会報告

第39回愛知県放送教育特別研究会報告

部会研究「感じる心を育てる」

平成19年8月24日(金)

会場 ウィルあいち

■提案1 「心を揺らし、自分なりの表現を楽しむ幼児の育成」



名古屋市立鳴子幼稚園
小野内 貴美子

幼児向けテレビ番組を視聴し、表現やごっこ遊びなどにつながる実践を行った。テレビ番組を中心としたビデオ教材の良さとして、音や動きの面白さが印象に残り、友達とイメージを共有しやすいということが明確になった。又、幼児の興味にあったテレビ番組、ビデオ教材を選び、視聴の方法やタイミングを考慮して視聴することにより、子どもたちは共通の目的をもって一緒に遊びを展開していく楽しさを味わうことができた。

■提案2 「視聴覚教材を通して、 イメージを共有 できる場をつくり、 友だちとの関わり を深める」



三重郡幼稚園協会
磯貝 智子



運動会に向けて表現活動へつなげる1つの方法として、動物のビデオ視聴をした。視聴をきっかけに、サバンナの草原を表現する活動が、豊かに展開できた。さらに、運動会当日は、子どもたちなりに、動物の動きを的確に表現する姿がみられ、いろいろな動きを楽しむことができた。

■助言

- これからの放送教育の担い手として、保育園、幼稚園は、家庭でのテレビとの付き合い方を提言していくことが必要である。具体的には、集団で視聴し、その後、楽しく友だちと遊んでいる姿を家庭に伝えていく。さらに、大人が同席視聴をすることにより、子どもと面白さを共感できるという効果性を伝えていくことが大切である。
- 視聴覚教材を保育に取り入れる際には、教材のストーリー性を把握し、子どもにとっての価値、子どもの変容が期待できる事などを明確にしておくことが大切である。



研修保育園
野田 久美

川越町教育委員会
高橋 啓一

第39回愛知県幼児視聴覚教育研究大会報告

平成19年11月1日(木)

心と体で実感する身近な自然の不思議さ・命の輝き
-実体験と様々な視聴覚教材を通して-

●研究報告

会場 名古屋市熱田文化小劇場



自然との関わりを大切にしたいという思いから、四季を通じて園内に様々な草花や昆虫、野菜などとふれ合う環境を整えている中で、子どもたちが直接体験から生まれた不思議さや疑問を図鑑や絵本、ビデオを通して明らかにし、さらに直接体験とすりあわせていくことで、より一層自然への興味関心が高まることをねらいとして、研究がすすめられました。

名古屋市宮西保育園



5歳児
佐々木 律子

4歳児
舟橋 富美江

3歳児
宇佐見 尚子

園長
鋤柄 則子

実際に生き物の世話をする過程での様々なアクシデントを経て、子どもたちは直接体験での思うようにならない部分を、視聴覚という間接体験で得た知識を生かしながら、自分なりに受けとめ、命の重さを感じることができたのではないかと報告されました。



現代は自然との関わりが希薄といわれながらも、私たちは毎日「いただきます」という言葉で自然から命をもらって生きているという、自然とは離れることのできない事実がある。そのために今回の実践研究のように身近な自然に関わり命の重さを感じることを、子どもたちに様々な形で知らせていく必要がある。その方法のひとつとして視聴覚教材を取り入れるにあたって、子どもたちの様子を記録し、次の実践への手がかりとしてすすめていった丁寧な研究内容であったといえる。



■記念講演

「日本と世界の子どもたちの架け橋に」

フリーカメラマン 佐藤 好美



49歳でカメラを手にしてフリーカメラマンとして世界を回り、様々な状況や文化に触れた様子を貴重な写真映像を元に紹介してくださいました。「平和」とは、自由にどこにでも移動できること。日本はその点では平和といえる。しかし心はどうか。親子、家族、友達、地域、それぞれの心と心がきちんとつながり合っているだろうか。「今、私たちにできることは、未来ある子どもたちのために、平和を守っていくことではありませんか？」というメッセージをいただきました。



まだまだ知らない世界へと誘われていくような
平原綾香さんが歌うオープニングテーマから番組は始まります。

皆さんは、『海の上を走る花』や『水の上を走るトカゲ』、『道具を使うサル』etc.をご存知ですか？



2006年12月放送

第34回：「大発見！道具を使うサル」



2007年1月放送

第36回：「水の上を走る 謎のバシリスク」



2007年2月放送

第43回：「花！海を走る」

番組は第一章から第三章にわかれ、いろいろな生き物を紹介しています。30分間の放送時間の間には子どもたちが飽きてしまわないように「ダーウィンNEWS」というコーナーで他の生き物についても取り上げられています。ちょっと一休みといった感じでしょうか。また、「ヒゲじい」というキャラクターが話の展開に加わり、親しみやすさを増しています。ただし、「ヒゲじい」はダジャレが得意？！のようですけどね。

総合テレビで毎週日曜日の午後7時30分から午後8時まで放送されます。子どもの番組に付き合うといった感じではなく、大人が見ても「へー。」「ふーん。」「そうなんだあ。」と十分に楽しめるでしょう。

園で子どもたちと保育者といっしょに楽しめますが、家庭においても是非親子で視聴し、関わりのもてる番組としてお奨めです。

おしりかじり虫がやってきた!

平成19年12月3日(月)
一宮市 研修保育園に巨大化した

かいり君
が出現!

というのも、ミニミニ番組『おしりかじり虫と踊ろう!』
の収録のため、振付の南流石さんはじめNHKスタッフ10数名
が来園しました。

かいり君を見た子どもたちはうれしいやら
ビックリするやら、乳児組の子どもたちに
至っては圧倒されて泣き出す始末・・・。

でも、収録に参加した4・5歳児は南さんや
かいり君と一緒に歌って踊ってゲームして、
と終始大興奮でした。

番組は12月中に総合
テレビと教育テレビで
3回「も」全国放送
されました。

ただし、放送時間は
3回合計でなんと4分間
でしたけどね。



平成20年度

第40回愛知県幼児視聴覚教育研究大会のご案内

平成20年10月29日(水) 会場:名古屋市中村文化小劇場

子ども達にとってのテレビという環境について、保育園で
の放送教育の実践から、保護者に対して投げかけたり、保護
者からの意見も受止めながら、テレビとのよりよい付き合い
方を求めていると思います。

多くの方々のご参加をお待ちしています。
詳しい内容と申し込み要項は後日お送りします。



編集後記

地球温暖化の原因は、人々の創り出して来た様々な
環境に問題が生まれはじめてきたからです。人々が幸
せに生きていくためには、グローバルな視野で情報を
共有し、活用できる物と心の環境整備が必要です。

連絡先

NHK 名古屋放送局事業部内
愛知県幼児視聴覚教育研究会 事務局
〒461-8725 名古屋市東区東桜1-13-3
TEL. 052-952-7070 FAX. 052-952-7036